

「第7回独立行政法人農畜産業振興機構評価委員会」議事録要旨

1. 日時：平成21年6月5日（金）
午前10時から午後12時30分まで
2. 場所：独立行政法人農畜産業振興機構 北館6F大会議室
3. 議題：(1) 第6回評価委員会におけるご意見等への対応状況について
(2) 平成20年度業務実績について
(3) 機構を取りまく諸課題と機構の対応について
(4) その他
4. 出席委員：大木委員、河原委員、田中委員、伴委員、宮崎委員、矢坂委員、吉田委員
5. 農林水産省出席者：生産局生産流通振興課酒井砂糖類調整官、生産局総務課白濱課長補佐、生産局総務課犬飼係長、生産局畜産企画課渡邊係長、生産局生産流通振興課高橋係長
6. 役職員出席者：木下理事長、高橋副理事長、伊地知総括理事、井田総括理事、太田理事、臼杵理事、河崎理事、北野理事、田中監事、堀監事ほか
7. 開会、理事長挨拶等
伊地知総括理事が開会を宣言し、各委員、農林水産省からの出席者、機構の出席者を紹介した。次に、木下理事長が挨拶し、機構の平成20年度業務実績の概要等について説明した。
宮崎委員長は、委員会の終了後、委員の了承を得た上でホームページに委員会の議事録要旨を公開したい旨を提案し、各委員の了解を得た。
8. 議事
伊地知総括理事から議題（1）の「第6回評価委員会におけるご意見等への対応状況について」及び議題（2）の「平成20年度業務実績について」を、各担当理事から議題（3）の「機構を取りまく諸課題と機構の対応について」を、それぞれ配付資料に基づいて説明し、質疑応答を行った。

[議題（１）第６回評価委員会におけるご意見等への対応状況]

(河原委員) ホームページについて、月２回以上の更新となっているが、主に何を更新しているのか。

(伊地知総括理事) 消費者コーナーの情報を中心に、なるべく新しい情報になるように更新している。

[議題（２）平成２０年度業務実績について]

○第１ 業務運営の効率化に関する事項

(田中委員) 施設整備事業で投資効率が１以下となっている施設は何か。

(伊地知総括理事) 投資効率が１以下のものは、食肉流通合理化総合対策事業で農協が行った事業が、取引先との価格交渉の不成立や大口農家の廃業等により、処理羽数が減少したことによるもので、集荷羽数の確保に向けて取り組むよう事業実施主体を指導している。

○第２ 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

(伴委員) 機構が行っている事業は、複雑で分かりにくい。例えば、指定野菜価格安定対策事業については、資料５をみて理解できた。国内産でん粉交付金など、他の制度についても分かりやすい資料をつけてほしい。

(田中委員) 機構が行っている交付金交付の事業は、〇〇業務日以内の交付となっているが、機構の支払日か、それとも生産者に交付された日か。

(伊地知総括理事) 例えば、砂糖の国内産糖交付金については、製造事業者が交付申請者、甘味資源作物交付金は生産者の代理人である農協等が交付申請者である。いずれにしても機構から交付申請者に交付した日である。

(大木委員) 情報を速やかに提供するという意味では、資料５の「指定乳製品・飲用牛乳等の需給価格動向の把握」では、指定乳製品・飲用牛乳等の需給・価格動向を整理し、提供するまで１ヶ月半以上かかっている。もっと早く情報を提供できないのか。

(伊地知総括理事) 最終的には、確報値を確認して整理をしているため、１ヶ月半程度の時間を要している。

(大木委員) 資料５のバターの需給等の資料をみると、消費量よりも昨年４～６月のバターの在庫量が多いにもかかわらず、バターの大口需要者価格は上がっている。機構はその要因等を調べて情報提供すべきではないのか。また、無塩バターと有塩バターを分けて需給情報を提供することはできないのか。

(伊地知総括理事) バターの適正在庫は、消費量の2.5ヶ月分程度と言われており、月々の消費量よりも在庫量は多い。その時々需給状況にもよるが、国内の需給はこれを超えると価格は下げ要因となる。国内の需給は、一昨年までは需給が緩和し、減産を行ってきたが、昨年の夏は、猛暑のため、乳牛の乳がでず、国内の生産が目標水準を下回った等が、バター不足の主な原因となっている。

(大木委員) バターの在庫があるのに、バター不足がおきたのは理解できない。もっと情報を提供してほしい。

(木下理事長) 乳製品の需給は、様々な要素が関係し、非常にむずかしいが、タイムリーな情報を提供できるよう努力していきたい。

(伊地知総括理事) 有塩バターと無塩バターの情報は、統計がとれるか調べてみたい。

(田中委員) 私もバターの在庫量と価格の動きが合わないのはおかしいと思う。在庫は機構が持っているのかメーカーが持っているのか。

(伊地知総括理事) 機構では、通常在庫をもっていない。価格が著しく騰貴したときは、国の要請に基づいて輸入を行っている。

(木下理事長) 私どもも調べてみたが、昨年のバター不足は、飼料価格が世界的に高騰し、ヨーロッパで生産が減少したことも要因のひとつである。

(矢坂委員) 私も昨年のバター高騰については、気になって調べたが、家庭用バターをはじめとして、いくつもの商品カテゴリーのバターのデータが必要になる。一般的に公表しうるメーカー情報の入手は難しい。

(大木委員) 資料4に学校給食のサンプル調査を行ったとあるが、調査結果はどのような内容となったのか。結果も載せるべきである。

(伊地知総括理事) 資料5に関連のデータは掲載されているが、平成20年度の調査では、一定の示唆は得たものの、引き続き研究を行い、内容の精査を行う予定。最終的な結果が出たらお示ししたい。

(田中委員) 照会件数が514件あったが、そのうち苦情にはどのようなものがあるのか。

(伊地知総括理事) 514件の内訳は、昨年のバター不足の際には苦情も寄せられたが、当機構が提供している統計情報等への照会がほとんどである。

(田中委員) 短期借入金の金利を引き下げる努力をしているが、そのインセンティブは何なのか。

(木下理事長) 借入については、制度運用の結果、発生するものであるが、機構においてできるものは金利の低下であり、入札を行うことにより、金利の低下を図っているところ。

(河原委員) ホームページのアクセス件数の目標値543万件の根拠は何か。例えば、前年比20%増とか前向きな目標にすべきではないか。

(伊地知総括理事) 平成18年度の実績値である。第1期中期目標の目標値は、140万件以上であった。

(鋤柄企画調整部長) 補足すると、中期目標として農林水産省から示されたもの。目標にかかわらずホームページのアクセス件数が増えるよう努力するとともに、内容の充実も重要と考えている。

[議題(3) 機構を取りまく諸課題と機構の対応について]

(矢坂委員) 昨年度のように農畜産業をめぐる状況がジェットコースターのようにならざるを得ない中で、機構は補正予算等で緊急的、かつ迅速に事業を実施することが求められる。こうした要請にどのように応えていくかが重要である。また、機構が財源の有効活用を行い、施策実施のための金融機能を担うような事業が増えているのか。

1年ほど前まで高騰していた欧米の乳製品価格が急落し、生乳の余剰が問題になっている。貿易が国内市場のバッファータリ得なくなるかもしれない中で、機構は情報部門を活用し、内外の需給状況の変化の予兆を提供していくことが重要と考える。

(木下理事長) 緊急対策の実施に当たっては、超過勤務による対応のほか、機構内の人員を定員の範囲内で有効配置し、対応してきた。また、緊急対策には、機構の資金も活用し、事業を実施してきた。情報については、市場感覚にすぐれたタイムリーな情報を海外駐在員、農林水産省からの情報を活用しつつ、的確に提供してまいりたい。

(大木委員) 随意契約等審査委員会というのがあるが、これには第三者は入っているのか。また、事務室の家賃の値下げ交渉は行っているか。

(木下理事長) 随意契約審査会は内部の委員会である。また、当ビルの家賃は古くから入っていることもあり、世間相場よりはかなり安い。

(吉田委員) 機構が行う交付金交付事務について、交付金の受け手である生産者側の意識調査は実施しているのか。

(木下理事長) 交付金の生産者側の意識調査は実施していないが、事業の評価も含めて、様々な場面で生産者等の意見はうかがっている。

[議題(4) その他]

特になし

9. 閉会

最後に、伊地知総括理事から今後のスケジュール等について説明を行った後、宮崎委員長が、閉会を宣言した。

以上のとおり、議事の経過概要及びその結果を記載して、ここに議事録要旨を作成した。